

ごきげんよう。皆さんは長い夏休み、いかがお過ごしだったでしょうか。この夏もたくさんの共立生がカナダとニュージーランドで海外生活を体験しました。そして、毎年行っている中学生向けの English Shower に加えて、今年から高校生向けの Global Studies Program をスタートしました。日本を離れて海外へ行った人も、日本で過ごした人もそれぞれに学びや実りのあるお休みだったことと思います。

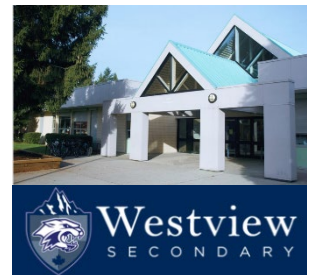
さて、夏休みが終わるとあっという間に後期がやって来ます。残り半年も様々な国際交流プログラムを提供して参りたいと思いますので、引き続きご参加お待ちしております。

😊 Canada Long-Term Program 2025-2026 ～ [redacted] comes back to Japan!



共立女子中学高等学校はカナダ・ブリティッシュコロンビア州（バンクーバー地域）にあるメイプルリッジ・ピットメドウズ教育委員会よりパートナー校として認定されており、カナダでの約 10 ヶ月の留学プログラムに、学内選考を経て高校 1 年生 1 名を派遣しています。

カナダロングターム留学生 6 期生の高校 2 年生の [redacted] さんが日本に帰ってきました。[redacted] さんはこの留学プログラムの 6 期生として昨年の 8 月にカナダに入国し、この 6 月末まで約 1 年間に及ぶ留学生活を送りました。[redacted] さんが通っていたのは West View Secondary School というメイプルリッジ・ピットメドウズ教育委員会学区域にあるハイスクールの 1 つです。そんな [redacted] さんからの最終レポートをご紹介します。



◆ メイプルリッジ／ピットメドウズ教育委員会

カナダの西海岸、バンクーバー国際空港より約 1 時間の場所に位置します。公立の小・中・高等学校を管轄する教育委員会で、質の高い教育プログラムを準備しています。国際バカロレアプログラムだけでなく、スポーツや芸術面でのコースも多数提供されています。また、14 歳で飛び級してカナダ国内のトップ大学 5 校に合格し、カナダ政府にギフトド〔天才児〕と認定された日本人少年の大川翔くんを輩出した学区でもあります。この学区は自然に恵まれた地域ですが、バンクーバー都市圏の一部を形成しており、大都市の便利さも持ち合わせた環境です。



◆ 本校のロングターム留学プログラム

- 【派遣地域】カナダ・ブリティッシュコロンビア州（バンクーバー地域）
- 【派遣校】学区域内の 6 つのハイスクールのうち 1 校 【派遣期間】9 月から翌年 6 月までの 10 ヶ月間
- 【募集定員】1 名
- 【選考】成績面・生活面・健康面などを考慮し、学内選考を経て決定

〔以下原文のまま〕

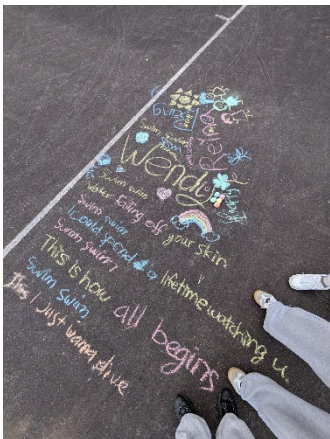
長いようで短い、短いようで長かった 1 年間の留学を無事終えることができ、これが最後のレポートとなります。

How Grads Spend Their Time

カナダの学校は 9 月に始まり 6 月に終わるため、12 年生（高校 3 年生）は 6 月に卒業を迎えます。卒業式までの間、学校では 12 年生に向けたイベントが目白押しでした。特に印象的だったのは、1 人 20 ドルの参加費を集めて行う生き残りのドレッシング・ゲームです。毎日提示される「お題」に沿った格好をしなければならず、ルールを破ると他の生徒に告発されて失格になります。見事最後まで残った人が賞金を獲得できる仕組みです。そのお題もユニークで、「妖精の格好をする」「フォークにピクルスを刺して持ち歩く」など日替わりで癖のあるものばかり。12 年生を見つけては「今日のお題はこれなんだね！」と友達と話すのが毎日の楽しみでした。



School Festival



5 月中旬には、学校全体が一丸となる文化祭のような行事がありました。共立祭とは違い、「先生が生徒をおもてなしする」というスタイルだったことにとても驚きました。私は生徒会のような活動をする「Leadership」のメンバーとして、イベントの運営をお手伝いしました。準備段階では校内にマップを貼ったり、全学年が体育館に集まって競い合うイベントの設営をしたりしました。当日は担当する先生の教室へ行き、企画が円滑に進むようサポートしました。裏方業務だったため他の教室を見て回ることはできませんでしたが、イベントを支える側もとても楽しかったです。先生方と全生徒の協力のおかげで、イベントは大成功に終わりました。

Reflections on My Exchange Year

1 年間の留学を終えて今感じているのは、「高校生というこの時期に、本当に良い経験ができた」という強い思いです。高校 1 年の秋から高校 2 年の夏という大切な時期に、日本の学校の勉強から離れてしまったこと、そして共立祭や修学旅行に参加できなかった寂しさは正直あります。しかしそれ以上に、自分自身の成長や進路に関する新しい視点を得られたことは、親元を離れてこの 1 年間を駆け抜けたからこそだと実感しています。渡航前は成績も不安で、帰国後の遅れを考えると怖さもありました。ですが「1 年間やり切った」という経験は、今の私の大きな自信になっています。英語が得意かどうかや期間に関わらず、「共立の外の世界をしてみる」という選択肢もどこか頭の片隅に置いておいてもらえたら、一先輩としてとても嬉しいです。



😊 Interview with [REDACTED]

～ What is it like to stay with a host family?



ホームステイに挑戦したいけれど、「なんとなく怖い」と思っている人も少なくないと思います。そこで、約1年間に渡りホームステイを経験したロングターム留学生の[REDACTED]さんに、ホームステイについて聞いてみました！

- Q. 実際にカナダに行く前は、ホームステイに対してどのようなイメージがありましたか。
- A. 私は人見知りなので、ホストファミリーの方と仲良くなれるか心配でした。あとは食事についても心配でした。
でもカナダは教育委員会がしっかりしているので、相談窓口もあるし安心して渡航しました。
- Q. ピットメドウズ教育委員会ではどのような対応をしてもらえたのでしょうか。
- A. 半年に1回面談があって近況報告をすると、困っていることはないかを聞いてもらえました。教育委員会の他にもこの留学のエージェントの方とも頻繁に連絡をとっていたので、安心できました。
- Q. 実際にホームステイを経験して感じたことは、どのようなことでしょうか。
- A. 私はホストファミリーにとっても恵まれました。私は元々1人の時間が必要なタイプなのですが、様々な場面で声かけをしてもらいながらも、しっかりと1人になれる空間や時間を確保してもらえました。
- Q. 自分に合ったホストファミリーだったということですね。
- A. はい。渡航前に自分の性格やホームステイへの要望を提出するのですが、ピットメドウズ教育委員会の場合その項目がとても細かくて、細やかな配慮のあるマッチングをしてもらえたのだと思います。
- Q. [REDACTED]さんはホストファミリーに恵まれたということでしたが、周りの留学生はいかがでしたか。
- A. 実はホストファミリーともめた友人もいました。でも、すぐに教育委員会に対応してもらえて、ファミリー変更後は問題なく過ごせたようで、最終的には満足して帰国できたようです。
- Q. 渡航前は食事面の心配もあったということでしたが、実際に困ることはありましたか。
- A. 一度苦手な生のセロリが出たことがあって、最初は頑張って食べたのですが、その後たまたまアレルギーや苦手な食べ物の話題になったときに正直に話したら、嫌がられることなく「加熱していれば大丈夫？」など配慮をもらえました。
- Q. 食生活はどのような感じででしたか。
- A. 夜ご飯は洋食中心でしたが、週に2～3日はお米も出ました。日本米に近いものでうれしかったです。ランチも毎日用意してもらえました。
- Q. 約1年間のホームステイを経験して、「もっとこうしたら良かった！」ということはあるですか。
- A. もっと自分から話しかけたり、お出かけの誘いを受けたりすれば良かったと思います。私もホストマザーも淡々とお付き合いしているところがありましたが、もう少し仲良くなりたかったと思います。
- Q. 最後に、これからターム留学や海外研修でホームステイに挑戦しようと思っている人、ホームステイに対して怖いと思っている人へのメッセージをお願いします。
- A. 人との相性はどうしてもできない部分もあるけれど、ホストファミリーとの付き合いは限られた期間のものです。それに対する恐れと、留学や研修から得られるものを天秤にかけて決めるのが良いと思います。ホームステイは自分で対処する方法を見つける力をつけることができるものです。私は留学・ホームステイを通して、物事を見る視点を変えることができました。百聞は一見にしかずです。少しでも経験したい気持ちがあるならば、ぜひ経験してみてください。

😊 NZ 2-Term & 1-Term Program 2026

ニュージーランド ターム留学プログラム

ニュージーランドの学校はほとんどが4学期(ターム)制で、1月末から始まる第1学期に合わせて渡航します。

◆ 2ターム留学

【派遣校】 Takapuna Grammar School (Auckland)

【期 間】 1月下旬から7月上旬までの約6ヶ月間

【定 員】 1名



◆ 1ターム留学

【派遣校】 St. Catherine's College (Wellington)

Sacred Heart College (Lower Hutt)

Wellington East Girls' College (Wellington)

【期 間】 1月下旬から4月上旬までの約2ヶ月間

【定 員】 最大10名



今年度のニュージーランドターム留学生 10 名 (高校1年生) が決定！

◆ 2ターム留学 (第1期生)

〔5組〕 [redacted] さん

◆ 1ターム留学

〔1組〕 [redacted] さん・ [redacted] さん

〔2組〕 [redacted] さん 〔3組〕 [redacted] さん

〔5組〕 [redacted] さん 〔7組〕 [redacted] さん・ [redacted] さん

〔8組〕 [redacted] さん・ [redacted] さん



お世話になる学校の紹介

◆ 2ターム留学 : Takapuna Grammar School

【カテゴリー】 公立／共学校 【学年】 Grade 9-13 【地域】 オークランド 【学生数】 約 2,200 名

タカプナ・グラマー・スクールは 1927 年に創設され、NZ の公立校で初めて承認された「国際バカロレア (IB Diploma)」を提供しています。高い大学進学率を誇る進学校でありながら、スポーツや音楽、テクノロジーなどの課外活動も盛んです。日本人スタッフや留学生向けのサポート体制も整っています。留学生は約 170～200 名在籍しており、アジア圏だけでなく、ドイツ、スイス、フィンランド、ブラジルなど世界各国から学生が集まります。



◆ 1 ターム留学：

St. Catherine's College

【カテゴリー】 Integrated／女子校 【学年】 Grade 9-13 【地域】 ウェリントン 【学生数】 約 200 名

セント・キャサリンズ・カレッジはカソリックの女子校で、マーシー修道女によって設立されました。全生徒数は 200 名程度と小規模ですが、1 人 1 人へのケアが行き届いており、人種も様々で多様な文化背景を持った生徒たちと交流ができます。全生徒は祈り、修養会、ミサ、社会奉仕などを通して、宗教教育やカレッジの宗教生活に参加しています。留学生課には日本人スタッフが常駐しているため、何か問題があったときや相談したときは心強い環境です。授業は主幹科目以外では音楽、アート、ドラマ、家庭科やデジタルテクノロジー、写真、デザイン、ツーリズムなどがあります。学校は空港から車で 10 分程度の便利な場所にあります。13 種類以上のスポーツ系クラブと、文化系ではコーラスやコンサートバンド、ギターアンサンブルなど音楽分野のクラブが充実しています。



Sacred Heart College (Lower Hutt)

【カテゴリー】 Integrated／女子校 【学年】 Grade 9-13 【地域】 ローワー・ハット 【学生数】 約 810 名

セクレッド・ハート・カレッジ (ローワー・ハット) は、1912 年創立の歴史と伝統のあるカソリック女子校です。思いやりとキリスト教精神に基づいた環境の中で、生徒一人一人が自身の可能性を最大限に高め、学業向上を目指すことを奨励する学校です。2013 年に優れた音響や照明設備を備えた新しい舞台芸術センターをオープンし、優れた図書館やコンピューター施設を併設するなど充実した学習環境を整えています。ウェリントン中心部からは車で約 25 分のところにあるローワー・ハットという郊外の町の中心に位置しています。学校から電車の駅までは徒歩 10 分、ウェリントンの街までも電車で 20 分で行くことができます。



Wellington East Girls College

【カテゴリー】 公立／女子校 【学年】 Grade 9-13 【地域】 ウェリントン 【学生数】 約 850 名

ウェリントン・イースト・ガールズ・カレッジは 1925 年に創立された公立の女子校です。空港や町中から近い便利な場所にあり、ウェリントンの町を一望できる丘の上にあります。アカデミックレベルも高く、音楽、芸術系の授業にも力をいれており様々な授業を提供しています。長期留学生は年間 30 名までと制限をつけ、きめ細やかで高い質のサポートを提供できるように心がけています。少人数制の ESOL 授業も充実していますが 50 種類以上のスポーツやクラブ活動があり、楽しく留学できるような機会を提供されています。学校周辺も治安の良い地域で、安心して留学生活を送ることができます。2019 年度に一部校舎を改築し、クラシックな感じとモダンな感じを融合させた校舎になりました。





Heads to Australia

高校2年生の [redacted] さんが、留学のため7月中旬にオーストラリアへ飛び立ちました。[redacted] さんは水泳やライフセービングに取り組んでいて、ライフセービングの本場であるオーストラリアで、英語だけでなくライフセービングや現地のスポーツ文化について学んでいます。[redacted] さんが通っているのは、東オーストラリアのクイーンズランド州にある All Saints Anglican School という学校です。[redacted] さんからのレポートが届きましたので、皆さんにもご紹介します。早速日本とオーストラリアの違いについて、たくさんの発見があったようです。

【以下原文のまま】

こんにちは。高校2年生の [redacted] です。私は現在、オーストラリアのゴールドコーストにある All Saints Anglican School に、9か月間の留学をしています。オーストラリアに来てから約1か月が経ちましたが、毎日新しい発見があり、とても楽しく充実した生活を送っています。



オーストラリアでの生活で特に楽しみにしていたのが、ホストファミリーとの生活です。私のホストファミリーは、マザー、ファザー、11歳と6歳の男の子の4人家族です。毎日一緒にご飯を食べたり、家の前の道路でクリケットをしたり、庭でサッカーをしたり、粘土で遊んだりしています。家族みんなでマリオカートをすることもあります。特にブラザーたちとはとても仲良しで、いつも私の部屋に3人で集まって遊んでいます。休日にはブラザーたちのフットボールやクリケットなどの習い事にも一緒について行っています。学校へも毎日車で送り迎えをしてくれていて、家族にはとても感謝しています。

学校に来て最初に驚いたのは、とにかく学校が広いことです。All Saints は幼稚園から高校までが同じ敷地内にあり、その広さはなんと東京ドーム約8.5個分もあります。毎時間授業の教室が変わるため、授業のたびに校内を移動していて、毎日たくさん歩いています。また学校内にジムや寮もあったりととても設備が充実しています。水曜日と金曜日は体育着で登校するというのも日本の学校とは違うところです。

現在は留学生クラスで、日本人、韓国人、中国人、台湾人の友達と一緒に英語を勉強しています。いろいろな国の人と一緒に過ごしているので、それぞれの国の文化や言葉を知ることができるのも楽しいです。韓国人の友達から韓国語を教えてもらったり、中国人の友達から中国語を教えてもらったりして、私も日本語を教えることがあります。学校にいながら、いろいろな国の文化を知ることができるのは、留学ならではの経験だと思います。



授業にも日本の学校とは違うところがたくさんあります。授業時間は30分、40分、1時間など授業によってさまざまです。また、モーニングティーの時間があることに驚きました。特に金曜日のスポーツの授業は毎回楽しみにしています。学校の外へバスで移動して、ボウリング場に行ったり、ビーチバレーをしたりすることがあります。日本の体育の授業とは違った経験ができるので、とても新鮮です。

学校生活の中で特に印象に残っているのが、「All Saints Fair」です。2年に1回開催される学校のお祭りで、学校に遊園地が来たり、たくさんのフードトラックが並んだりします。夜にはステージでのパフォーマンスや花火もあり、とても大きなイベントでした。学校の中でこのようなイベントが開催されることに驚きましたが、友達と一緒に楽しむことができ、とても良い思い出になりました。

オーストラリアでは、学校以外でも日本ではなかなかできない経験をしています。先日は船に乗ったときに、野生のイルカとクジラを見ることができました。また、学校のキャンプで Noosa に行った際には、野生のカンガルーも見ることができました。動物園ではなく、実際に自然の中で野生動物を見ることができたことがとても印象に残っています。

そして、オーストラリアに来てからもう一つ驚いたのが、いつ見ても空がとてもきれいなことです。基本は晴れていて、夕方などとても空がきれいです。雨が降っていてもすぐにはれるので高頻度で虹を見ることができます。先週はダブルレインボーを見ることができました。また、オーストラリアの住宅街は街灯が少ないため家の庭からも満天の星空を見ることができます。



☺ CA&NZ Summer Program 2026

本校では昭和 44 年より異文化体験と英語によるコミュニケーション能力向上を目指し、夏季休暇期間中にホームステイや学校寮での生活と、スクーリングを中心とした海外研修を実施していて、参加者には学費より助成金が支給されます。今年度はカナダとニュージーランドそれぞれ 1 コースで実施しました。感受性の豊かな中高時代に、海外生活を肌で感じ、文化や歴史そしてライフスタイルの違いを肌で感じることは、世界的視野を養い、今後の人間形成の大きな糧となります。

対象	中学(中 2・中 3・高1・高2)	
研修国	カナダ	ニュージーランド
研修地	バンクーバー	クライストチャーチ
日程	7/19 (日) ~8/2 (日) 〔15 日間〕	7/26 (日) ~8/9 (日) 〔15 日間〕
滞在方法	学校寮	ホームステイ
参加者	38 名	25 名

◆カナダコース

ビクトリア州ノースバンクーバーにある Bodwell High School の Summer Camp に参加し、寮生活を体験しました。メキシコ、ドミニカ共和国、台湾、中国、タイ、香港、ボリビア等、世界中からの留学生と様々なアクティビティを通して交流することができました。午前中は ESL の先生による英語の授業を受け、午後は世界中から集まった相談役の大学生とともにグループごとに外出するなどのアクティビティがありました。夕食後もアクティビティがあり、日中英語漬けの生活を体験しました。また近くにある名門大学 UBC (The University of British Columbia) を訪問し、現役大学生にキャンパスツアーをしてもらいました。



◆ニュージーランドコース

今年度は 2 年ぶりに姉妹校であるセント・マーガレット・カレッジでお世話になり、ホームステイをしながら、学校に通いました。登校初日には、先住民族マオリ式の歓迎式典で迎えてもらいました。現地学生たちの格好良いハカを鑑賞し、共立生もお返しに中学校校歌を披露しました。また全校集会に参加した際には、ソーラン節も披露しました。今回共立生のためにお世話役のバディーを引き受けてくれた生徒が 70 名を超え、たくさんのバディーに囲まれて休み時間を過ごしたり、昼食を食べたりしました。学校では共立生のための英語の授業を受けたり、現地校の授業(体育・技術家庭科)を体験したり、バディーと一緒に授業を受けたりしました。2 週間を共に過ごしたホストファミリーとのお別れの場面では、たくさんの涙も見られました。



☺ Bank of America Job Challenge in English 2026

BANK OF AMERICA



KYORITSU GIRLS' JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

7月30日(木)、アメリカ最大の民間金融機関の1つであるバンク・オブ・アメリカの東京支社を中学1年生から高校3年生まで23名の生徒が訪問しました。昨年度に引き続き、東京都教育委員会主催のイベントとして参加した都立高校の生徒さんと北豊島高等学校の国際英語コースの生徒の皆さんと一緒にトレーディングゲーム(株の売買のシミュレーション)をしました。オフィスツアーでは



様々な国籍の方が大きなモニターを

前に、実際にトレードをしている様子を拝見したり、トレーダーの方々の1日の様子を伺ったりすることができました。

また、社員の方に仕事やキャリアについてのお話を伺い、生徒達は積極的に質問するなど、意欲的にプログラムへ参加していました。最後にトレーディングゲームの順位発表があり、順位に応じてバンク・オブ・アメリカオリジナルのグッズを賞品として頂き、生徒達は大喜びでした。

このイベントは、金融の現場を肌で感じることでできる貴重な体験プログラムです。次回のイベントにも多くの生徒に参加してもらえると嬉しいです。



☺ Summer English Shower (中学生向け)

夏休み中の8月24日(月)・25日(火)・26日(水)の3日間、恒例の Summer English Shower を実施しました。レベル別に4つのコースを用意し、どのコースでもスピーキング・リスニングスキルの向上を目指し、ディスカッションや発表(Show & Tellやプレゼンテーション)を行います。一番高いレベルのクラスでは、SDGsを通して社会



貢献や課題解決について考え、ディベートという形で意見交

換をします。また、様々なバックグラウンドを持つ講師から出身国について学ぶことで、異文化理解や多様性にも触れられます。講師は日々入れ替わるので、たくさんの講師から学ぶことができます。今年

は中1から中3まで120名を超える生徒が参加しました。初日には緊張した表情が多く見られましたが、徐々に笑顔も増え、真剣な面持ちで準備をした上で最終日には全員が様々な形態で発表を行い、修了証が贈呈されました。次回は冬休みです。中学生の皆さんのご参加をお待ちしています。



😊 Global Studies Program (高校生向け)

中学生が English Shower を実施している間、高校生は今年度初の企画 Global Studies Program に参加をしていました。Global Studies Program は日本で学ぶ外国人留学生と共に社会問題についてディスカッションをし、発表するというプログラムで、学校としてカスタマイズ



ができるものです。今年度は共立のスローガンでもある「リーダーシップ」について、その定義から考え、さらには世界の女性リーダーたちの例を検証し、理想のリーダー像について議論をし、最後に実践するという内容で行いました。



今回はパキスタンとガーナから留学に来ている学生たちと一緒に活動しました。年が近いこともあり、生徒たちはとても話しやすそうで、一緒にディスカッションをすることでたくさんのヒントをもらっていました。また、それぞれの出身国にある課題について、SDGs と関連させて解決策について話し合いました。

次年度はより深い内容で実施したいと考えていますので、高校生の皆さん、ぜひ参加してください。



😊 Easter Event @ Language Square



少し前のことになりますが、4月24日(金)にランゲージスクエアでイースターイベントを開催しました。満員の25名の中学1年生が参加をし、本物の卵に色をつけて、本物のイースターエッグを作成しました。

当日は英会話の授業を履修している高校3年生4名([redacted] さん・[redacted] さん・[redacted] さん・[redacted] さん)がお手伝いに来てくれて、優しく中学1年生をサポートしてくれました。



最後はランゲージスクエアのあらゆるところに隠されたキャンディーを探すイースターハントも楽しみ、自分たちが作ったイースターエッグとキャンディーをうれしそうに持って帰って行く様子はとても微笑ましいものでした。

次のイベントは10月30日(金)のハロウィンです。お楽しみに！

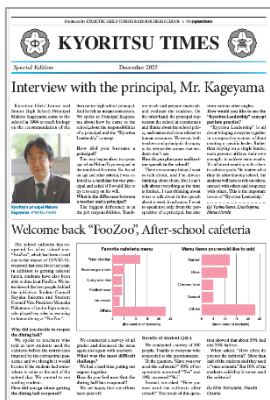


☺ Kyoritsu Times Project 2026

thejapan times



共立女子中学高等学校
KYORITSU GIRLS' JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL



Kyoritsu Times Project は日本の英字新聞のトップブランド The Japan Times の協力のもと、生徒の皆さんの手によって英字新聞を作成するプログラムです。毎年、中学3年生から高校2年生までの有志が取材、記事作成、レイアウトなど英字新聞の作成を一から学び、共立独自の英字新聞の発行をしています。新聞の作成を通して、思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力を向上させ、社会性や協調性を身につけることができます。今年度は中3から高2までの有志37名が参加し、 編集長（高校2年生）を中心に編集会議を経て取材を行い、制作に取り組んでいく予定です。



5月16日（土）に The Japan Times の元編集局長で現在はフリージャーナリストとして活躍している大門 小百合 氏にお越しいただき、「英字新聞の書き方研修」で講師を務めていただきました。英字新聞記者としての心得から、トピックの選び方、取材の仕方や記事の構成の仕方まで幅広くご指導いただきました。また、実際の編集会議さながらに、今年度扱うトピックについて生徒たちと一緒に検討していただきました。今年度も8面構成で、皆さんの興味を引く記事を作成していきます。12月に発行を予定していますので楽しみに待っていてくださいね。

大門 小百合 氏



ジャパントイムズの記者、編集者、報道部長を経て、女性として初めて編集局長に就任。論説委員を経て2020年9月に独立。ジャパントイムズ在職中にハーバード大学特別研究員としてメディア、アメリカ政治を研究。育児休業中に研究員として招かれ、子連れでサウジアラビアの研究所で研究する。2014年から2020年まで世界経済フォーラム主催のダボス会議のメディアリーダーとして参加。著書に『The Japan Times 報道デスク発グローバル社会を生きる女性のための情報力』（ジャパントイムズ出版）、『ハーバードで語られる世界戦略』（共著、光文社新書）等。また、朝の情報番組『DayDay.（デイデイ）』（日本テレビ系列）に月曜日・金曜日（隔週）、土曜日夕方の情報番組『サタデーLIVE ニュース ジグザク』（同系列）にもコメンテーターとして出演している他、2024年よりNHKの『ニュースで学ぶ「現代英語」』にも出演中。